

南無阿弥陀仏は
私のいのち

NO.
426

平成25年
7月号

え
し
お

7

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



迷惑をかけるということ

幼い頃から「他人に迷惑をかけてはいけない」と親に口うるさくいわれてきた。迷惑とは「自分の行為がもとで他人に不利益が生じたり、不快感を与えること」とある。責任ある人間になるためには不可欠な事柄として教えられてきた。

ある小学六年生の詩に「人間は生きるためにニワトリも殺さなくちゃいけないし 豚も殺さなくちゃいけない 生きるといことは ずいぶん迷惑をかけることなんだ 自分で自分のことを全部出来たら 人はひとりぼっちになってしまう 他人に迷惑をかけるということは その人とながりを持つことなんだ 他人の世話をすることは その人に愛を持つことなんだ 生きるっていうことは たくさんの命とつながりを持つことなんだ」(無着成恭『ヘソの詩』より)とあるが、自分には持ち合わせていない感覚に驚いた。

生まれてくるときから人の手をわずらわせ、毎日、他の命を奪い続けて生きている私。親鸞聖人は「無慙愧は名づけて人とせず」といわれ、慙愧あるがゆえに人間だといわれる。それはまわりに迷惑をかけないようにするのではなく、迷惑をかけずには生きられない我が身に目を覚ましていくこと、それが人間として生きるすがたであると教えられる。

すでに人になったつもりで生きている私に、本当に人になつていく道をあきらかにされたのが仏の教えである。

高い、遅い。美味しい

にしかじ じんいち
台東区在住 西鍛冶 仁一 さん



今回は台東区竜泉で鰻屋「大和田」を営んでおられる西鍛冶仁一さんにお話を伺いました。

◆親父の姿

この店は二代目なんだけど、元々親父は石川出身で、この辺りで塗り物を売りに行っていたんだ。でも時代を考えて、頭も肝も売れる鰻を売り始めたらいいんだよ。始めは屋台みたいなので売っててさ、俺たち兄妹が疎開した時も苦労して仕送りをしてくれてたんだ。

ここに店を持ったのは戦後少ししてからなんだけど、まるつきりの素人で始めたから、なかなかお客さんが入らなかったね。だから貧しかったんだけど、お年玉を毎年くれたり、いつも家族のことを気にかけてくれてんだよ。厳しくて恐い親父だったけど、本当に仕事だけじゃなくて目に見えない心を親父から教わった気がするね。そして俺に鰻屋のレールを敷いてくれたっていうのがすごいことだと思っただ。本当に有り難いよ。

◆奉公へ

十五才から七年間、奉公に行っただけで、ずっと下っ端だったから出前ばかり行かされて、ほとんど仕事は教えてもらえなかったね。ただ人に使われたっていうことが、

今思うと大事な経験させてもらったなって思うよ。人の飯を食うっていうことが大事なんだ。馬鹿にもされたり、そういうことをやってくれば、痛みとか優しさとかが分かるっていうか、身についてくると思うんだよ。

◆分らない強さ

親父は元々頑固で、素人で始めたから研究熱心だったんだよ。だからうちの鰻は高いけど他では食えないっていうこだわりがあったんだよ。俺も奉公先で仕事を教えてもらわなかったからこそ、今になっても色んなことが新鮮で、研究してるけど、分からないからこそ面白いっていうのがあるね。研究してるから高い、遅い、美味いっていうこだわりが持てるんだよ。

◆家族でこれからも

今うちは家族でやってるけど、みんなよく働いてくれるし、こんな俺を持ち上げてくれるんだ。お客さんもそうだし、人に恵まれて、この充実があれば怖いものがないんだよ。今は鰻の値も上がって、辛いところもあるけど、去年から婿が店に入ってくれて、雰囲気も明るくなったし、俺が生きてる間頑張って、いつか老舗って言われるような店になりた

いね。
(聞き手 仲井 真裕)



「合掌」

寺院をお参りする時や、仏壇をお参りする時には、両方の手の平を合わせ静かに礼拝します。これが合掌です。

この方法はインドから来ていて、現在のインドでも挨拶をする時に合掌します。この合掌が仏教にも取り入れられているようです。インドでは古くから右手は清浄、左手は不浄とされてきました。右手で食事をし、左手で用を足す。この使い分けは、今も厳しく守られています。右手は清浄・仏を表し、左手は不浄・私達を表わします。そして両手を合わせるころに、人の本来の姿、真実が明らかになることを意味しているようです。

つまり、合掌することを通して仏と私達が出会う世界を表し、その世界を願うことが、合掌する姿にまでなっているのです。

(大橋 伊知郎記)



「凡夫人」は「凡夫」のことです。凡夫というと善人も悪人もいるように思いますが、仏の平等の慈悲から見れば、共に凡夫なのです。つまり、仏の慈悲は、善人の誇り、悪人の卑下を突破して、ただびとという裸の凡夫に響くのです。それで、親鸞聖人は、「一切善悪の凡夫人」といわれるのです。この凡夫に開かれた教えが、「如来の弘誓願を聞信す」る道であります。

真宗の教えは、聞信の道といわれます。「真宗の修行は、一生の聞法である（正親含英）」といわれた先生もいます。聞信は、世間のひまをかき、何度も足を運び、繰り返し繰り返し、我が身を省みながら教えに親しむこととあります。若い時から聞法を重ねた九十歳のおじいさんが、「わたしは、お寺の隣に住まわしてもらったおかげで、法座には欠かさず参ったつもりだが、それでも聞法の正味の時間をたして二十四時間で割ると、三カ月あまりだ、九十年の生涯からみれば、ごくわずかなものだ」と話されました。聴聞の時間のみをいえば、もつと法座の多い土地もありますし、遠くまで出かけて聞法される人もい

ます。しかし、あの先生の話は聞く、この先生の話は聞かないと、いつの間にか聞法を聞話にして、自分の深い心に出遇うことを、おろそかにしているのではないのでしょうか。



聞というなり。また大きくというのは、心をあらわす御のりなり。（『一念多念文意』）といわれます。聞くとは、老少・善悪・貴賤をえらばぬ、本願のいわれをたずねて、我が身の姿を聞くのです。一人

正信偈の話 ⑳

松井憲一

一切善悪凡夫人 聞信如来弘誓願 仏言広大勝解者 是人名分陀利華

（一切善悪の凡夫人、如来の弘誓願を聞信すれば、仏、広大勝解の者と言えり。是の人を分陀利華と名づく。）

静かに眠る時にも名声・財産・衣裳にうつつをぬかし、目を開けては善悪を論じているような、わが独断と偏見の無知を聞きぬくのです。無知を無知と知る、これほどの智慧はありません。だから、その人を「仏は広大勝解の者と言えり」と、たたえられるのです。無知の者が、自ら「広大勝

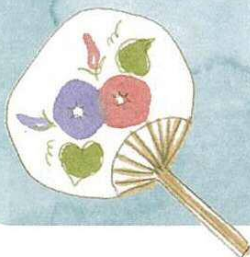
親鸞聖人は、聞について、「聞と言うは、衆生、仏願の生起本末を聞きて疑心あることなし。（『教行信証』）」といわれ、また「きく」というのは、本願をききてうたがうところなきを

解の者」と名のることはありません。「仏言」すなわち、お釈迦さまが、同志を得たとほめたたえてくださるのです。このほめことばが、「勝解者」すなわち勝れたよき理解者といわれる

ところに、聞信の内容が、狂信や盲信や依頼心でないことがわかります。こうして仏言に領く勝解の人は、「是の人を分陀利華と名づく」と、白蓮華（分陀利華）とたたえられるのです。もちろん、咲き乱れる蓮華の花には、大小があり、色あいのちがいががあります。しかし、ともに泥沼に根をはり光を受けて芳香ある清浄無垢な花を咲かすことにおいては、どの花もみな同じであります。大きな花は大きのままに、小さい花は小さいままに己が分を尽し、白は白く紅は紅くそれぞれの個性を全うして、平等に咲きほこるのです。人は、その花をみて喜び、その香を聞いて、また同朋たらんと歩み出すのです。

まことに、蓮華は、中国の善導大師が、「もし能く相続して念仏する者、此の人甚だ希有なりと為。更に物として以て之に方ぶべきこと無きことを明かす。故に分陀利を引きて喩と為。『教行信証』」といわれるように、個性の輝きでた独立者の希有な生き方、念仏者の生活をたたえるシンボル・フラワーなのです。

山門の言葉



知ることは感じることの 半分も重要じゃない

阿川 佐和子

これは作家で活躍される阿川佐和子さんの言葉である。この言葉に出遇つてから自分の行動を振り返ってみると、私自身は普段どのような物事を捉えているのかと思わされた。そして、私は自分の知識に立つて物事を決めつけて見ていると感じさせられた。

「感じる」とは、何かを見て驚いたり感動したり不思議に思ったりと、誰もが持ち合わせている感覚である。私も小さい頃は、何かを見るたびに「あれは何？」と親に尋ねていた。どんなことを聞いていたのかは忘れてしまったけれども、分らないことを見つめるのが楽しかった覚えがある。

大きくなつてくると、感じたことの積み重ねで知識が身に付いてくる。だからいちいち人に聞かなくても自分で判断出来るようになる。しかし、それは自分の考えが絶対に正しいと思ひ込むこともある。私もよく、周りに相談せずに勝手に判断して叱られたことが何度もある。それは偏に自分の知識に立つて物事を捉えてい

る姿である。しかも、一度でなく何度も同じようなことで叱られるのは、自分の知識に固執している証であろう。

ところで、「感じる」と「知る」はバラバラにあるのではない。何かを感じることをきっかけにして初めて知識が身に付き、更にその知識を基に「何でこうなるんだろう」と感じていくのである。だから知識と感覚は切つても切り離せない関係であり、「半分も重要じゃない」はこのことを気づかせる例えであろう。

「これはこういうものだ」と決めつけてしまったら、新たな感覚は生まれて来ない。阿川さんの言葉は、物事を決めつけてはいないか、と私たちが問いかけているのではないだろうか。

何かを感じることは周りの人や環境との関わりで初めて生まれてくることである。「相手が誰であろうと会話のできる大人でありたい」とも話す阿川さんから私は、様々な人を通して感じることの大切さを教わった。

(高橋 淳記)

おつとめ

仏説観無量寿経②

『仏説観無量寿経』という経典は、人間の現実生活のただ中において、仏陀の教えを明らかにするものがあります。八万四千ともいわれる経典の中で、万人の足下に道を聞く教えが説かれています。

古代インドの大国の王宮において、王位を巡るお家騒動があらわされていますが、王族という特別な環境で繰り広げられた悲劇という問題ではありません。そうではなく、家族の間に起こった愛憎違順の争いが、そのまま人間存在を明らかにする、仏法が説かれる舞台となっているのです。

人間の理知・分別では解決できない因縁和合の世界に生きていながら、我執によつて巻き起こる愛憎の世界において互いに苦しめ合う私たちに、念仏こそが苦悩の人生を超えてくれる唯一の道であることを説いているのです。

(木村 専正記)

一緒に歌いましょう!!

(西徳寺 混声合唱団「エコー」 新規団員募集)



混声合唱団「エコー」は、これまで大遠忌法要や報恩講などに西徳寺本堂にて演奏会をしてきました。先生が発声練習を基礎から教えてくれるので、自分の歌い方や弱点が確認させられました。また、未経験の方も多く誰でも知っている歌を歌うので、団員さんと一緒に楽しく参加させていただいております。

今後は本堂だけでなく、11月に開かれる台東区合唱祭に出演する予定です。ぜひ、一度お越しください。

なお、団長は竹内乾一郎さん、幹事には猪口可津子さん、伊藤信子さん、安井高明さんが務められています。(高橋 淳 記)



練習日時：月2回程度
土曜日 15:30 ~ 17:00 (予定)

練習会場：西徳寺 本堂

会費：月額1,000円

現在練習中の曲目：「佛教聖歌集」
「とおoryんせ」「紅葉」など

指揮：横山 慎吾 (BS日テレ 毎週月曜日21時から放映
「BS日本・こころの歌」にレギュラー出演中)

ピアノ：金澤 麻里子
(台東区・墨田区・葛飾区の合唱団で活躍中)

申込・問い合わせ：西徳寺担当
高橋 淳 (電話：03-3875-3351)



日誌

- 5月14日 責任役員会・総代会
- 5月15日 婦人会聞法会 本山リーフレットに聞く「お内仏のある生活」
- 5月18日 定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習
- 5月19日 城南ブロック会総会・聞法会 (大井町きゅりあん) 参加者22名
- 5月23日 教行信証「信巻」に聞く(第88回)
講師 宗 正元師
- 5月25日 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 仲井 真裕

- 5月27日・28日 宗祖忌
- 5月28日 仏教青年会「歎異抄」に聞く
講師 宗 正元師
- 5月29日 勝友会布教大会(長崎・正覚寺)
岸本住職 大谷顧問 高橋 参加
- 6月1日 評議員会定例役員会
混声合唱団「エコー」練習
- 6月2日~9日 木村主任 滋賀北教区第一北組
差向布教 派出
- 6月5日 責任役員会
- 6月7日8日 中興忌
- 6月8日~11日 岸本住職 福井教区第一組
差向布教 派出

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

練馬区 山本 雅彦 様
葛飾区 宮崎 秀夫 様

※「えこお6月号」(第425号)の「えこお志お礼」欄におきまして、「滋賀県 東光寺様」と記述しましたが誤りでした。正しくは「三重県 東光寺様」です。訂正、お詫び申し上げます。

掲示版

平成25年7月



6日(土)	午後3時半	混声合唱団「エコー」練習
	午後6時	同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 山崎 哲
13日(土)～16日(火)		盂蘭盆会 (10日よりお盆体制になり、新盆を中心にお宅にお参りさせていただきます)
20日(土)・21日(日)		仏教青年会研修旅行(伊香保温泉方面)
23日(火)	午後4時	総代会
31日(水)	午後1時	婦人会間法会 「本山リーフレット」に聞く 「照らされて見えてくる」

夏はやっぱりバーベキュー！

(青年会主催バーベキュー大会のお知らせ)



去年は焼肉や焼きそば、ビールにジュースはもちろん、かき氷にじゃんけん大会、花火に門徒さんからのマグロやホタテの寄付など、ご家族連れの皆さんにも楽しんでもらいました。今年も開催します。お友達などと一緒に、ぜひお越しください。

なお、皆様からいただいた参加費は東日本大震災の義捐金として福島県自治体に寄付する予定です。
(高橋 淳 記)



● 8月25日(日) 17時半より開催

● 参加費：大人2,000円、小人1,000円(小学生未満無料)



編集後記

本山差向布教のため、6月2日から9日まで滋賀県・長浜市にある佛光寺派寺院を巡りました。のどかな田園風景の中にたたずむ本堂に、近隣のご門徒がたくさん参詣され、熱心にご聴聞くださいました。

今年で2回目のご縁をいただきましたが、場所が変わり、新たにお同行に出会う度に緊張が高まり、冷や汗を掻きながらお話をさせていただく8日間でした。
(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com